

## <大川小> 第1回遺族説明会 晴れぬ疑問、混迷の序章

東日本大震災から約1カ月後の2011年4月9日、石巻市教育委員会が大川小の保護者を対象に初の説明会を開いた。当時学校にいた教職員11人中、1人だけ生き残った男性教務主任（57）が遺族の前で語った唯一の場。説明会は非公開だったが、遺族が撮影した映像を基に再現する。（大川小事故取材班）

「すみません、助けられなくて、本当に申し訳ありませんでした」

説明会は大川小が間借りしていた同市飯野川一小で午後6時半に始まった。開始10分すぎ、教務主任が遺族ら約100人の前に姿を現すと、怒号がびたりとやんだ。誰もが一言一句を聞き漏らすまいとした。

黒い長袖のトレーナーを着た教務主任はうつむき加減だったが、口調ははっきりとしていた。時折、拳を鼻や眉間に当て、つらそうな表情を見せる。地震発生の様子から始まった証言は津波襲来の瞬間に及んだ。

「ものすごい突風と聞いたこともない音が聞こえてきて、学校の前の道路の方を見たら、ものすごい高さの津波が道路に沿って来るのが見えました。それで、すぐに『山だ、山だ、こっちだ』と叫んで山の方にやりました」

斜面に逃げた際、倒木2本に右腕と左肩が挟まれたと語る。「その瞬間に波をかぶって、も

大川小児童遺族説明会の経緯

2011年	4.9	第1回	生き残った男性教務主任が当日の様子を説明	
	6.4	第2回	児童らへの聞き取りを基に津波襲来までの経過を説明。亀山町市長が「自然災害の宿命」と発言。市教委は説明会打ち切りを宣言	
	12	1.22	第3回	初めて報道陣に公開。危機管理マニュアルの不備などを認め謝罪。校長兼教育長「人災の恨み」。第2回説明会前日に教務主任が遺族宛てに送っていたファクスを公表
	3.18	第4回	第三者検証委員会設置の検討を表明	
	7.8	第5回	市教委が防災対策や対応の不備を認めたが、関係者の処分は否定	
	8.26	第6回	亀山市長が1年2カ月ぶりに出席。「宿命」発言を釈明	
13	10.28	第7回	元校長の柏葉照幸氏が11年1月に教務主任と会っていたことを明らかに	
	9.8	第8回	10カ月ぶりに開催。市教委は検証委への影響考慮と表明	
	11.23	第9回	責任問題に市教委「検証結果を待ちたい」	
14	3.23	第10回	市教委「訴訟に影響」と説明拒否	

う駄目だと思ったんですが、波が来たせいかちょっと体が、木が軽くなって…」

斜面の上、数メートル先で3年の男子児童が助けを求めているという場面。「とにかく『死んだ気で上に行け』と叫びながら、その子を押し上げるようにして、斜面の上に必死に登っていきました」

津波襲来の瞬間、どこにいたのか。本当に波をかぶったのか。これらは後に、遺族に多くの疑問を生む。

「毎日、学校で中庭で元気に遊んでいる子どもたちの夢とか、直前まで一緒に卒業式の用意をしていた先生たちの夢を毎日見ます。本当にすみません」

約20分の独白を終え、深々と頭を下げた教務主任は机に突っ伏し、再び語ることはなかった。

父親の1人が静寂を破る。「どうして次の日に早く来てくれなかったの」。教務主任、柏葉照幸校長、山田元郎学校教育課長（いずれも当時）らが並ぶ机に、小さな靴をたたき付けた。

「分がっか、この靴、靴だけしか帰ってこねえよ。これ、おいの娘、靴か！！」

せきを切ったように怒りに満ちた質問が飛び、むせび泣きが漏れた。

「誠意がねえぞ」「何で1カ月もたつのっしや、こんな話すんのに」「何で先に登校式なんですか？」「人災なんだよね」「行ってきますって出ていったまんま、まだただいま言われてねえんだ」「本当に返してけろ」「返せ！」「子どもたちの出てきた姿、見たことある？お姉ちゃんが妹ば抱えて出てくるやつ。どんな思っていたと思う、あそこさ」

市教委は学校管理下以外の児童生徒も含む合同慰霊祭を提案した。「市全体のバランス」を強調し、逆に怒りを買った。まだ児童10人が行方不明だった。翌日から捜索への参加を約束した。

1時間半余りの説明会で、遺族の「なぜ」が晴れるはずもなかった。計10回の説明会、第三者検証委員会、訴訟へと続く長い混迷の序章にすぎなかった。